

「座頭市」と勝新太郎



復活した
「座頭市」をめぐるって

田山力哉

どをする。裕也は「俺も『コミック雑誌』の裕也ですから、緒形さんには負けられないようにします」と言い、緒形、苦笑。また「昔の『座頭市』のことは忘れて全く新しい映画として見てもらってもいい」と裕也は言うのだが、しかし古きをたずねて新しきを知る、かつて全盛をきわめたこのシリーズについて、それを知らぬ世代の人たちも若干の知識を得ておいて損はないだろう。それと若き日の勝新太郎の姿をもちがためて、少しばかり注解をおきたい。

シリーズ誕生まで—— 勝新太郎と市川雷蔵

勝新太郎が大映京都撮影所に俳優として入社したのは昭和二十九年。彼は長唄の杵屋勝東治の次男として、杵屋勝丸という長唄名を持っている。長男は同じく俳優として活躍中の若山富三郎である。

同時に大映入社した新人には、関西歌舞伎で市川寿海の養子だった市川雷蔵、新派の花柳武始などがおり、これまで役者としての経験が無かったのは勝だけであつた。映画界は権威に弱い。雷蔵らが最初からエリート扱いだったのに反し、勝はしょせん「三味線弾き」の扱いだった。

この三人が同時にデビューした作品が「花の白虎隊」(加戸敏監督)であつた。ロケに出発する時、白塗りのメーキャップに白虎隊員の服装をした勝新太郎が化粧室から威勢よく飛び出してきた、俳優

「みるく」の里の 大オーブン・セット

かつて大映で一世を風靡した勝新太郎の「座頭市」シリーズが、十六年ぶりに復活、勝自らの製作・脚本・監督・主演の一人四役で「座頭市」として再登場することになった。十月のクランク・イン直前に六本木で記者会見が行なわれ、私はその後、中華料理店で久しぶりの勝さんに会い、また共演者の緒形拳、内田裕也、陣内孝則、樋口可南子ら、旧知の人たち、それに初対面の片岡鶴太郎などと顔を合せた。

「みるく」の里」に建てられた宿場町のオーブン・セットでのロケ撮影を見学のため、全く未知のこの土地を訪れた。羽田から飛行機で岡山空港、さらにそこから車で一時間半も掛けて現場へやってきた。着いた時はもう日没近く、この日の撮影が終っていた平服姿の勝新太郎、玉緒夫妻に会う。勝プロモーションの社長である中村玉緒は、この映画の完成まで女優業を休むのだそうで、自分が出演せずにこの映画の進行にいろいろと細かい気づかいをしている。

さて宿場町のオーブンはなかなか立派なもので、そこを歩いていると時代劇全盛の頃に生きているような錯覚に陥る。ここには家が四〇戸建てられ、施工に要した期間が一八〇日、費用が三億円だそうで、今どきなかな大掛りなものである。新聞、雑誌、テレビなどの取材陣も大挙して来ており、その夜は大方丈というお寺みたいな所で大宴会。勝さんには前に市川雷蔵、田宮二郎、水原弘らについて、いろいろと話を聞かせてもらったこともあり、親しく酒をくみ交し、この映画についての話は翌朝にでもしてもらうことになっている。

この夜は勝夫妻のほか東映の「將軍家光の乱心・激突」で大チャンバラをやったばかりの緒形、一カ月前に青山のロック・コンサートの楽屋で会ったばかりの裕也、それに勝夫妻の長男である奥村雄大などが待っている。父親に似ず大人しそうな若者である。

会館の正面に横づけになっていたハイヤーに乗りこもうとした。

演技課員が走ってきて「君、君、だめだよ、君はバスに乗るんだ」と言う。勝は脇役俳優や裏方さんたちが乗っているバスに不承不承乗りこまなければならなかった。その間、雷蔵は悠然とハイヤーに乗って出発してしまった。

この作品では雷蔵が主役、武始が準主役、勝は脇役にすぎなかったが、それは役者としてのキャリアの差でやむを得ないとしても、雷蔵のギャラが三十万円なのに比し、勝は三万円というひどい差であった。

この映画をきっかけに雷蔵はスター街道を突っ走り、溝口健二監督「新・平家物語」（昭30）で平清盛役を演じたあたりから、大映京都を代表する若手のトップ・スターとして、めきめき売り出していた。勝のほうはその間も一向に人気が出なかった。彼はいつも白塗りの二枚目役をやらされていたが、それは大映の起用法の誤まりであり、彼はただ単にナマツ白二枚目の似合うキャラクターではなかった。

うだつのあがらぬ数年間を過ぎた後、「ドドンパ酔虎伝」（田中徳三監督・昭36）あたりからだんだん地が出てきて、三枚目的な要素を加え、奔放に暴れ回る二枚目半的な役が多くなり、それで彼はついに生気みなぎった。その彼が始めて爆発的な人気を得たのが今東光原作の「悪名」（田中徳三・昭36）であった。

この映画ではもうほとんど白塗りの二枚目姿を放棄、暴れん坊の河内の一匹狼の若い親分・朝吉に扮した。

勝と共に演じた田宮二郎が、朝吉を慕うチンピラのモートルの貞に扮し、歯切れの良いタンカを切るこの二人は絶妙のコンビを組み、喧嘩に次ぐ喧嘩、片っ端から悪い奴らをやっつけてゆくのが痛快で、観客は熱狂的な拍手を送った。

田中監督のカラリとした演出も良く、この映画は当時としては莫大な八五〇〇万円の配給収入をあげた。これは勝の入社七年目にしての初の大ヒットであり、同じ年に、すぐに「続・悪名」が作られ、シリーズ化されて大映のドル箱となった。その翌年に「座頭市」シリーズが始まるのである。

勝座頭市 新ヒーローの誕生

勝は昭和35年に「不知火校校」（森一生）という作品に出ているが、ここで彼の演じた鍼医者・徳の市は、なんとも救いようのないほど徹底した極悪非道の男。旗本の若奥様に自分が貯めこんだ金を貸し、弱みにつけ込んで犯し、しかもベテンにかけて貸した金を奪い取って彼女を自殺に追いこむ。しかも師の校校を殺して自分が位につき、金の力で茶屋娘を無理矢理妻にする。その妻に男があると知ると彼を毒殺、自分の妻をもしめ殺し、その罪を他人にかぶせる。これだけ冷酷非情に徹したドライな悪



●座頭市物語

王を作りあげたのは脚本家の犬塚稔であった。そして、座頭市シリーズは子母沢寛の原作と銘打っているが、実は市のことは彼の随筆集「ふところ手帖」にたった二、三行記されているだけであり、事実上の原作者は、そこからあのユニークな人間像を創造した犬塚なのである。

それまでの時代劇の美化されたヒーロー像とは異なり、座頭市は盲目で、むさくるしいほどの汚なづくり、アコギなやぐざ風だが、居合抜きの名人で、目が見えないのにやたらに強い。バクチ好きで女好きという、まことに人間臭ふんぶんとした役どころで、この男を演じて勝が白塗りの二枚目時代とは比較にならぬ圧倒的支持を得たのであった。

第一作の「座頭市物語」（三隅研次・昭37）では、市の人間像はまだ暗く世をすねた陰惨さがあり、後に出てくるユーモア味がなかったが、その市が結核を患っ



●続・座頭市物語

ている平手造酒（天知茂）と人間的にふれ合うあたりの味わいもよく、結局彼は進んで市に斬られるのである。この世の裏街道を歩く日蔭者同士の友情を描いたこの作品で、市は新しいヒーロー像としてファンに熱狂的な支持を受けることになった。仕込杖を操る独特のスタイルが人気を呼んだ。

この第一作の配収は五千万円でまあまあであったが、同年に森一生監督の「続・座頭市物語」が製作され人気は急速に上昇。これは市が兄の浪人者（若山富三郎）と敵味方として闘い、結局、兄を斬るが、その後の虚無的な心情が良かった。第三作「新座頭市物語」（田中徳三・昭38）では、卑怯な真切り方をした自分の師匠を斬ってしまい、以後二度と正常な世界では生きていけないという業を背負った市が描かれた。シリーズは一本ごとに観客数がふえ、

●「音」を楽しむ時代劇を工夫しなきゃいけない



勝新太郎、新作「座頭市」を大いに語る

四作目の「座頭市兇状旅」(田中)に至っては前作を一挙に倍増する一億五千万円の配収をあげる大ヒットとなった。日本映画の配収が落ち始めたこの時期に、勝は「悪名」との二シリーズで爆発的な人気を得るに至ったのである。

さらには四十年からは「兵隊やくざ」シリーズもヒットさせた。こうして勝は配収とかマスコミの話題の点では雷蔵を上回って、二人は「カッライズ」として大映京都を支え、ギャラも雷蔵と並んだ。昭和四十二年には独立して勝プロを設立、三船敏郎や石原裕次郎などと共にスター・プロの一環を担うことになった。四十四年に市川雷蔵が死去。「炎上」「華岡青洲の妻」などで男優賞を取り、

「眠狂四郎」「忍びの者」「陸軍中野学校」シリーズで活躍していた彼は、三十七歳の若さで癌細胞に犯されてはかなくもこの世を去った。

勝は底知れぬ寂寥感を覚え、二十年後の今日でも雷蔵のことを忘れぬ。四十六年には「顔役」を自ら製作・監督・主演で撮り、暴力組織と通じている悪徳刑事を人間的に描き、演じ、まるで若い映画青年のような若々しい映像を創造して驚かせた。

四十七年にはシリーズ第二十四作「新座頭市物語・折れた杖」を自ら監督、翌年の第二十五作「新座頭市物語・笠間の火祭り」(東宝、安田公義)で一応ピリオドが打たれた。

一夜明けて翌朝、みろくの里にはかなり強い雨が降っていた。撮影があやぶまれた。勝新太郎はゆっくり眠り、朝遅くホテルのロビーで会った。既に撮影はかなり押しており、雨で一旦中止はきつい。昨夜やってきた陣内孝則は今日一日しかスケジュールが空いていない。

見るとマイルド・セブンが一箱置いてある。そんなもの、なんで俺が取らなきゃいけないんだ、と、私は黙って勝の顔を見ていた。

だが取り敢えず、天気待ちの勝さんにいろいろと今回の映画について話を聞くことにする。

「なんだよ、自分ばかりビール飲んで、人の顔をじっと見て。煙草取れと言ってるんだよ」

坐ると直ぐ彼は「前にあなたに会った時、怒鳴ったんだよね」と言う。「そう、そう、あの時は面白かった」と私。

「いいんだよ。俺は、この人に言ってるんだよ。早く取れよ。取れたら、取れっ！」

今から六年ばかり前のこと。勝自身が監督していたテレビの連続もの「警視K」が視聴率不振のため打ち切られたころだ。東京プリンスホテルの一室で、彼は無念そうに演出談議をしていた。彼は昨夜テキーラを飲みすぎて二日酔いだと言

「なあ、田山さん、俺はこういう芝居が撮りたいんだよ」

い、ベッドに入ったままコーヒーを飲み、私は枕許でビールを飲んでた。

「こればかり五分ぐらい描いたら、迫力あって、面白いでしょ、ストーリーよりね。何もないんだから。いっぺん俺が煙草くられて言った時、ビール飲んで

彼は突然私にこう言った。「おい、あなたの前にある煙草一本取れ」

「こればかり五分ぐらい描いたら、迫力あって、面白いでしょ、ストーリーよりね。何もないんだから。いっぺん俺が煙草くられて言った時、ビール飲んで

でたら工合悪い筈だろ。それを、あんたは澄ましてビール飲んでる。これ撮っても面白いもんね。人間の持つてるチッポケなもの、そんなチッポケなことを、グズグズ言って男らしくないところ、に、男の可愛らしさが出るんでね」私は彼の即興の芝居を見事に受けたわけだが、勝さんもあの時のやり取りをよく覚えていたわけだ。

信用でできる監督がいなくなつた

「最初は真似るといことから入つていったんだけど、そのうちに歌舞伎役者だけじゃなくなってきたんだよ。現代劇なんかやると、地下鉄を待ってる人だったり、酔っぱらってタクシーの運転手と喧嘩している人だったり、今こうしてインタビューしていることだったりな。モデルが現在実在している人になっちゃうんだよ。」

例えば『座頭市』やるのに、やくざのキャストینگが浜幸（浜田幸一）さんみたいな人だったり、親分役が稲葉さんみたいに小柄な男だったり、という風に発想していくから、ストーリーを俳優さんの台詞とか身体を使って追ってゆくというような脚本が、十年位前からだんだん嫌になつてきちゃったんだ」

——監督までやつてしまおうというのは、役者として出ているだけじゃ物足

りないからですか？

「いや、そういうことじゃないんだよ。どっちかと言うと信用でできる監督がいないうことだ。不満というのじゃなく、皆、生立ちが違うから。同じ戦争直後に焼跡歩いてても、銀座の焼跡歩いてたのと深川の焼跡歩いてたのと皆それぞれ違う。それと同じように監督とか芸能人の生立ちはみんな違うから。だから監督が千人斬る座頭市を作りたいと言っても、俺が嫌だと言えばそれでおしまいだもん。座頭市の持つてる魅力はなんだろうと思うと、ストーリーを決めるんじゃないくて、カメラが座頭市を自由に歩かせて、それについて行つてみようということだ。」

座頭市が三木のり平の漁師に会う。そしてのり平の紹介で女親分のおはん（樋口）に会う。そこで喧嘩になってそこにいらなくなる。すると他人のために人を斬り罪を背負って浪々の身で歩いているという緒形拳が登場する。ところが彼も罪が背負いきれるのかどうかと思ひ始めたところで座頭市に会う。すると今度はその浪人から見た座頭市ということになる。次に座頭市が狙われる。

なぜ狙われるかと言うと、座頭市は狙われるような所にはいないと生きていけないんだよ。映画の中の座頭市は阿弥陀様の傍にいちや食っていけないわけだよ……というような感じのものがやりたい。

これが今までたくさん作ってきた、有名な座頭市が帰ってきたというんじゃないくて、今の若い二十代の人たちに問いかけ

宿場町の大オープン・セット



てみたいんだよ。これから按摩さんの映画を撮るんだけど皆さん見るか見ないかって」

——今までの座頭市のパターンを取つ払って新しいものを？

「昔、我々ぐらゐの年齢の人達を喜ばせてきた座頭市のストーリーなら今たくさんあるんだよ。それを全部外したところで、新しくこんな眼の見えない坊主がいたと、そこでその回りに裕也だとか陣内だとか鶴太郎だとか、そういう若い人たちを配するわけで。前に俺がやってた頃の相手役は上田吉二郎、平幹二郎、仲代達矢、天知茂だったけど、今はもうそういうところじゃなくなってるから」

——じゃあ、うんと現代風の座頭市で？

「うん。座頭市が六本木を歩いていて、それじゃ『アマンド』で待ってるよ、とか言っても、少しも可笑しくないような時代劇が、いつか来るような気がするんだ。」



座頭市と緒形拳扮する浪人

だから一両、十両と言っても、暮六つと言っても今の若い人には分らない。一両といったら大体、ソープへ三回遊びに行けるような値段段とか、俺だったらそういう見当つけるから分かるけど。そういうのも色々ふくめてね、迷つて、迷つて、迷つて、作ってるわけだよ」

——現場でも迷いに迷つて？

「本番OKの出たフィルムが送られてくるんだけどね。だけどペンで書いた物じゃなくて、これはフィルムと照明とカメラマンと俳優さんと、そこにまかり間違えはどうにもならなくなっちゃうヒットラーみたいな監督がいるわけでしょ。だけれどもこのヒットラーは、強いことを言ってるもんだから、皆がずーっと信じてくれてさ、次の場面どうするかと思つて次の場面のアングル待ってるんだけど、その時にこのヒットラーの頭の中に次が浮かんでない時のこの孤独さね。皆が口を開けて待つててくれるんだよ、俺



メガフォン持って現場を指揮する勝監督

脚本は撮り終ってから書くんだ

を。俺は見つけてるんだって顔をしていながら、実は何も見つかってない。その時は舞台に出て、ふと自分が舞台にいること忘れて台詞が出てこない、その孤独と同じだね。信じられた時に何も浮かんでない時のね」

——溝口健二監督だったらそんな時、例えば小道具なり何なりにイチャモンつけてごまかすんだよね。

「ところが俺、そういう風にこの葉っぱが悪いやとか、天気が悪いやとかね、イチャモンつけるより、事実俺が困ってる時は皆に見てもらっちゃった方がいいと思って。勝新太郎を含めて、これから俺とつき合うんだったら、ごまかしじゃなくて。実際にはね、皆、金いくらあるか」って、スタッフに言ってるんだ。こういう状態なんだよって。ところが、皆金は無いから俺がくれると思って皆待ってたんだ。皆もらいてえんだよ。だけどこっちは何も無いんだよ。屁も無いんだ」

書くんだ

——俳優の時は台本は読まないと言っていたし、今回もスタッフの誰も台本を持っていないと言う。事実、脚本を書かないんですか、それとも現場でスタスタに直すんですか？

「現場で変えちゃうと言っても、その変える物が無い。脚本は書くんだけど、それは撮り終ってから書くんだよ」

——じゃあ、毎日現場でアイデアを？

「毎日毎日言うんじゃない、ある程度までは出来てるわけだから。ただ普通の人の出来てるというのはストーリーが出来てるということ、それで完成度が数十パーセント。俺の出来てるって言うのは人間関係の流れがやっと出来ていくということ、ストーリーは後から出来る。ただ人間の毛穴から吹き出てくる湯気のようなものが、ストーリーとして

少しずつ浮き出てくることは確か、全然無いんじゃないんだ。映画を見る人達にストーリーを見て下さいって言うか、それとも人間の一人一人の仕草とか、そういうものを見て下さい、そうすると最後に皆さんそれぞれのストーリーが出来るんじゃないかとか」

——勝さんは後者の方でしょうか？

「どっちがいいかね。俺がストーリーを決めて作っちゃうか、映画だから自分の見せたいとこだけアップにして、見せたくないところはロングにすれば、とか、やっぱり監督の好き嫌いで編集することになる。でも話術の間というのがあるから、やっぱり次の音を待っているという、次の音へ入ってくる間のようなもの、時代劇というのは音の間の気持良さというか、音を作ったかきや台詞もつまらない。ただ、金を貸してくれ」というのをリアルに「金を貸して下さい」と言うのと、金を貸して下さい、（注、哀れっぽい調子で）と言うのじゃずい分ちがう。同じ場面でも音を楽しむ時代劇を工夫しなきゃいけない」

——今の時代劇は粗雑になってるから

……。

「今、もう音の工夫なんか無くなってる。忘年会なんかでやる時代劇ね、今やあれがまともな時代劇になりつつある」

——勝さんも年齢を重ねて、年を取った座頭市になるわけですか？

「いや、年齢の行った座頭市にしようとか、若い座頭市にしようとか考えてないから。今思った時が幾つ位の座頭市にな

っているか、それが二十歳とは言えないだろうけど。まあ、この前久しぶりに妻い格闘劇を撮ったんだけど、かつて『悪名』とか『兵隊やくざ』でやってたのが、この年齢になっても勝新太郎は凄くなっていう位、そんな風にやってる。相当きつかったけどね」

——若い俳優さん達はアドリブの台詞を？

「あるけど、ぐつときちゃう」とか「スカッとしたよ」とか、そういう言葉で出ちゃうんだよね。「ドス」と鉄砲じゃ肌触りがちがう」なんて、時代劇にはちよつと向いてない。アドリブが頭に浮かんで、それを時代劇風に言うのはどうしたらいいかって聞く人がいる」

——キャストイングはどう選んだんですか？

「自分で選んだというよりね、たまたま自分がこういう連中と一緒に仕事してみたいなあと思ったらこうなっちゃったんだよ。鶴太郎はね、樹木希林とコマージュで話している時の顔が何とも言えずいい、それで選んだ。裕也は前に俺に喧嘩売ってきた。俺と知り合いたったんじゃないの」

話している間にも雨は降り続き、本日の撮影は中止になり、勝新太郎はテレビ用の撮影をするために出て行った。二日間、ついに現場を見ることができず、久しぶりの座頭市姿の勝新太郎を見ることができなかつた。それは二月公開の新作「座頭市」の画面でじっくり見ることが出来るだろう。